

第4回 鶴岡市文化会館管理運営実施計画アドバイザー会議

日時：平成27年8月20日(木)

午後6時30分～

場所：鶴岡アートフォーラム 大会議室

次 第

1 開 会

2 協 議

(1) 「運営主体」について

(2) 「開館記念事業」について

(3) 「市民参加」について

(4) 「管理運営実施計画に記載する項目」について

3 そ の 他

(1) 改築工事の進捗状況について

(2) 今後のスケジュールについて

4 閉 会

第4回鶴岡市文化会館管理運営実施計画アドバイザー会議 出席者名簿

H27. 8. 20(木)

◎ 総合アドバイザー

(敬称略)

氏名	所属等	区分
草加 叔也	公益社団法人全国公立文化施設協会アドバイザー 有限会社空間創造研究所 代表 (元文化会館管理運営計画検討委員会アドバイザー)	

◎ 地元アドバイザー

(敬称略)

氏名	所属等	区分
梅津 芳春	利用者団体（邦楽） (元文化会館管理運営計画検討委員会検討委員)	関係機関・団体等
柿崎 泰裕	利用者団体（洋楽） (元文化会館管理運営計画検討委員会検討委員) (元文化会館整備検討委員会委員)	〃
伊藤 裕美子	利用者団体（演劇） 市民参加型ミュージカル制作担当	〃
大久保 紀子	鶴岡男女共同参画グループさんかく事務局 (元文化会館改築設計者選定委員会委員) (元文化会館整備検討委員会委員)	〃

(欠席者 : 穂積恒雄委員)

◎ 教育委員会

氏名	職名・所属等	備考
難波 信昭	教育長	
小細沢 充	教育部長	
佐藤 正哉	社会教育課長	
岡部 信宏	〃 文化主幹	
熊坂 めぐみ	〃 芸術文化主査	
齋藤 正浩	〃 芸術文化係長	
原田 孝昭	〃 芸術文化係専門員	
眞田 千裕	〃 〃 主事	
三浦 譲	〃 〃 芸術文化支援員	

資料1

鶴岡市文化会館整備の 今後の方向性(案)

鶴岡市教育委員会社会教育課
平成27年8月12日現在

目次

- ・運営主体 P 1~P 5
- ・開館記念事業 P 6
- ・市民参加 P 7~P11

運営主体・組織の概要

これまでの検討経緯

整備基本計画

H24年3月

新しい文化会館の管理運営については、これまでと同様に、指定管理者制度による民間活用を基本とした運営を目指すこととします。

基本理念に基づく事業運営を継続して遂行するためには、市民の参加・協力による運営が重要となることから、新たな指定管理者にもなりうる運営体制の構築も視野に、芸術文化団体などを核とした市民による運営組織づくりを検討していく必要があると考えます。

管理運営計画

H26年3月

基本理念に基づく事業運営を継続して遂行するためには、市民の参加・協力による運営が重要となることから、新たな指定管理者にもなりうる運営体制の構築も視野に、芸術文化団体などを核とした市民による運営組織づくりを検討し、早期に運営主体を決定する必要があります。

また、新文化会館の基本理念や使命を実現するためには、専門性の確保と市民参加を適切に実現できる組織づくりが必要と考えられます。「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」においても、制作者、技術者、経営者、実演家など、事業を行うために必要な専門的能力を持つ人材を養成、確保することが求められています。

多様な文化活動を行っていくために、各分野において事業を企画・立案・実施していく役割を担い、また文化活動を行う市民や利用者に対して適切に支援を行うことができる専門家の配置を検討します。

運営主体の基本条件

◆市民参加を適切に実現できる

文化会館の基本理念や使命を実現していくためには、運営をサポートする組織や、友の会など、多くの市民が参画し、市民への芸術文化を適切に実現できる運営主体でなければなりません。

◆利用者目線の柔軟で効率の良い運営ができる

ホールや練習室、各種機材などを貸し出したり、比較的利用の多い、夜間や土日祝日などのサービスにも柔軟に対応できる、利用者目線に合わせた業務ができる運営主体でなければなりません。

◆市民のニーズや時代に即応できる

助成団体、企業、個人などからのファンドレイズや、ICTや様々なメディアを使った広報活動など、市民のニーズや時代の流れに即応できる運営体制でなければなりません。

◆専門性の確保と向上ができる

文化会館が地域に果たす役割を十分に熟知し、地域や国内の芸術文化の知識、アートマネジメントへの高い意欲、高い専門性などを持った職員やスタッフの確保、またはOJTなどで育成ができる運営体制でなければなりません。

指定管理候補に求めるもの

基本理念

「支える 育てる 高める」未来につなぐ
芸術文化の拠点

新・文化会館の 運営主体に期待するもの

- ・地域の芸術文化事情に精通している
- ・芸術文化のハード・ソフト両面に知見がある
- ・市内外に芸術文化のネットワークを有している

地域の芸術文化事情に精通し、これまでに蓄積された芸術文化による市民のネットワークを有している団体としては、芸術文化団体が適当である。
芸術文化団体が、長期的な視点にたって文化会館を中心とした地域の芸術振興を推進していくことで、次世代を担う若者を育成しつつ、地域の活性化にもつなげていくことが期待される。

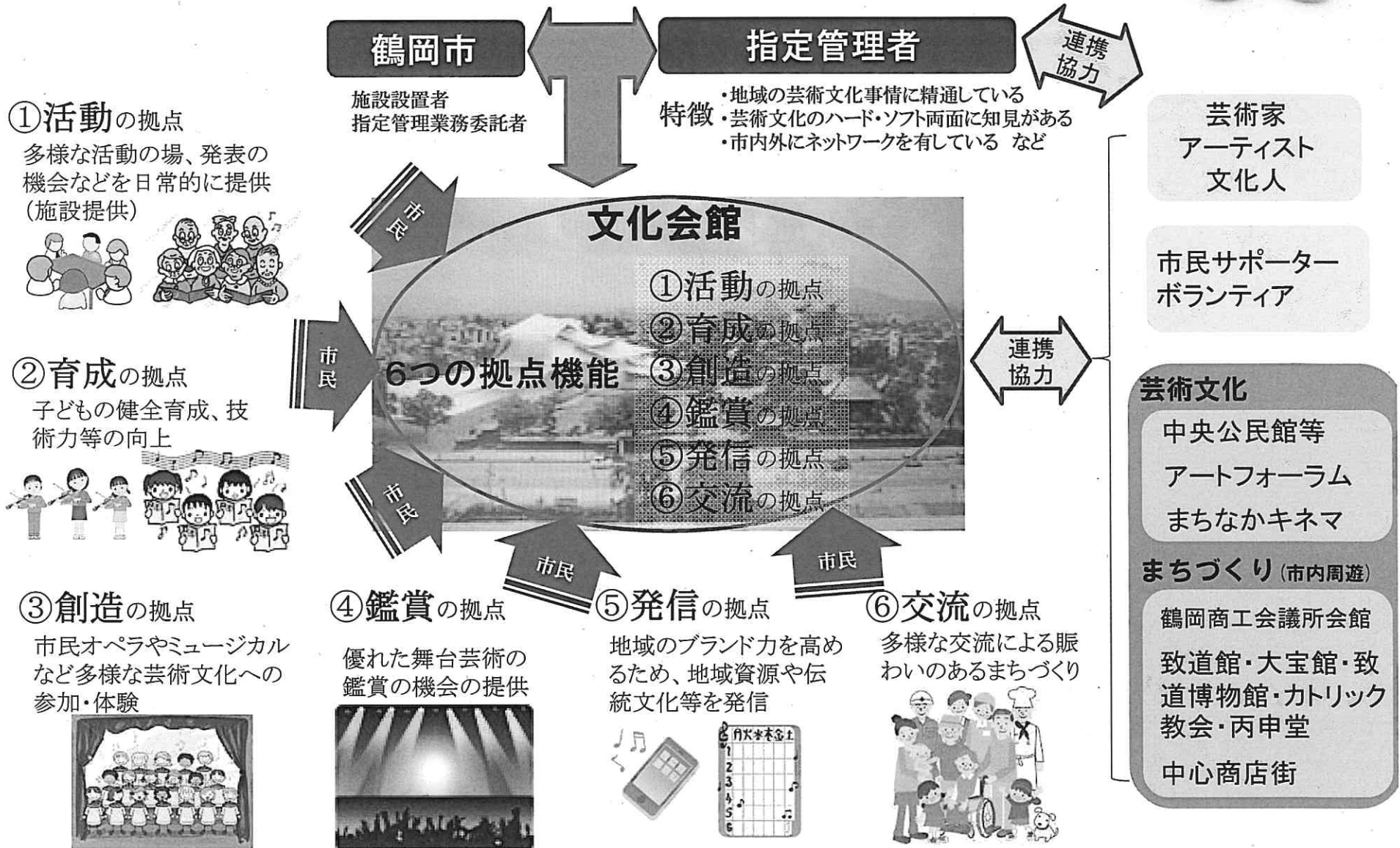
新・文化会館を核とした 芸術文化振興の展開

- ・生涯学習としての芸術文化振興
- ・芸術文化を通じた子ども達の健全育成
- ・優れた芸術家・指導者の輩出
- ・芸術文化による地域振興

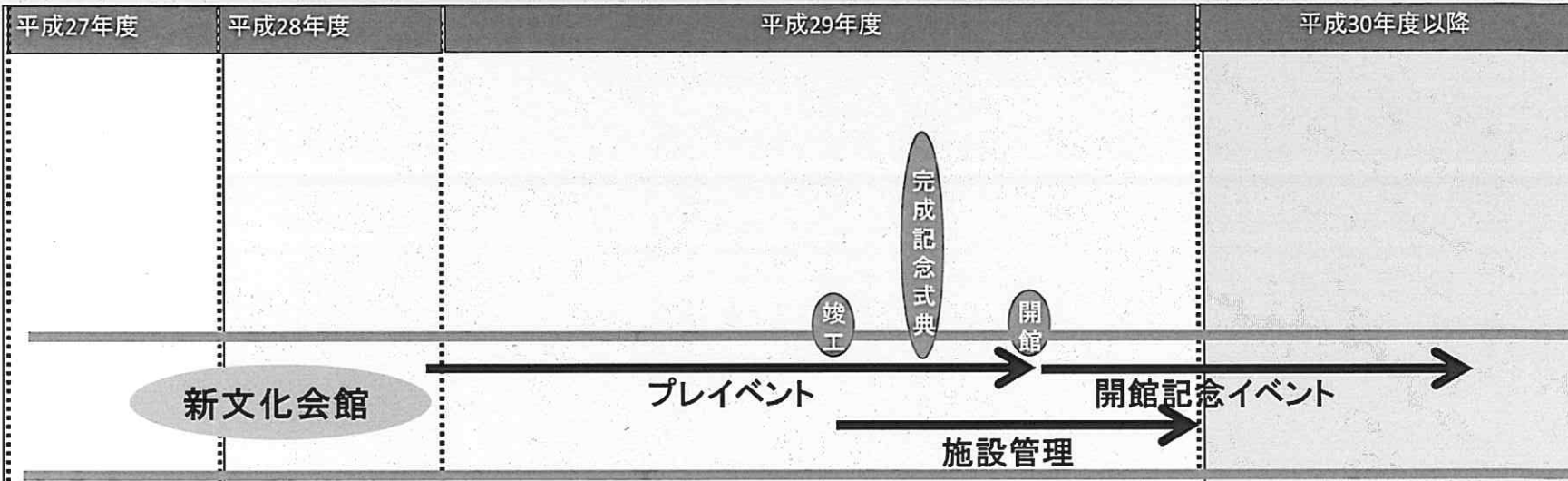
新・文化会館の未来予想図

基本理念

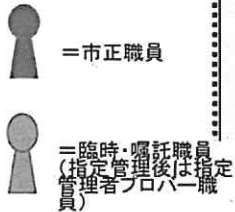
「支える 育てる 高める」未来につなぐ芸術文化の拠点



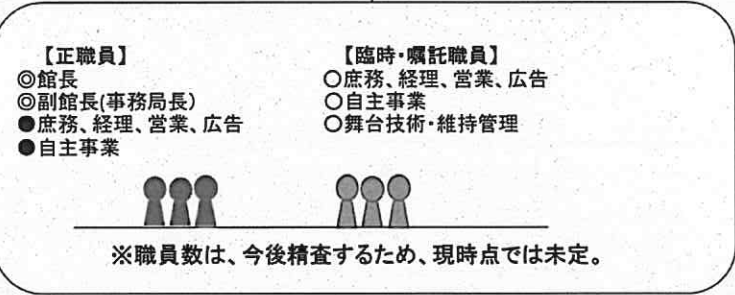
今後の運営主体の移行スケジュール



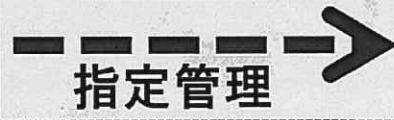
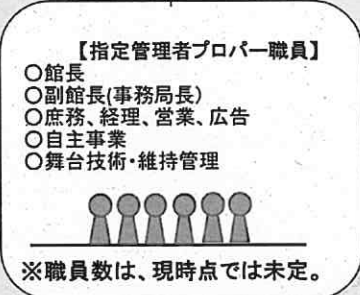
指定管理へのプロセス



1) 新・文化会館の指定管理に向けた事業展開
 芸術文化団体の強みを活かし、専従職員が事業展開を行っていく。この期間中は、指定管理への移行のための準備期間でもある為、文化会館の管理運営のノウハウを蓄積しながら、事業を行っていく。
 また、開館初年度の記念事業については市の重要施策でもある事から、特に市の考えを的確に反映させる必要があることと、実際に必要なランニングコストの算定や、費用削減のポイントを把握する必要がある為、市正職員と専従職員が分担し、各事業を行っていく。

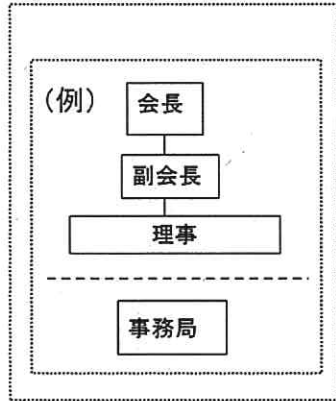


2) 指定管理への移行
 直営から指定管理者に移行する際は、市正職員の急激な引き上げによって、これまで蓄積されたノウハウやネットワークが失われないようにするために、開館当初から将来、指定管理者で柱となって活躍する人材を嘱託等で任用してもらうこととする。

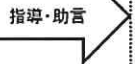


新・文化会館の組織体制のイメージ図

【指定管理者候補】



アドバイザー
 ○マネージメント対応、支援、助言
 ○他文化施設との連携事業、情報交換、対応 など



監査
 適正な会計経理を推進するため、指定管理者となる団体の監査体制が確立されている。

会計
 組織の経営状態を明確にするとともに、適切な会計処理が行われるようにチェック体制が確立されている。

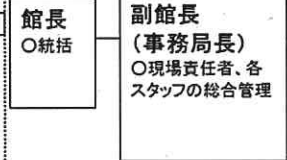
組織運営
 指揮、命令系統が明確であり、意志決定が図られる組織である。

事業運営
 事業運営にあたっては、市民の意見を取り入れたり、指定管理業務委託者である鶴岡市の意向を反映できる組織である。

運営スタッフ
 経営総務・自主事業・技術の各部門に、知識、経験を有し、意欲のあるスタッフを可能な限り配置する。

評価
 文化会館の利用者の利便性や満足度等の向上を図るため、運営や事業に対する評価を(定期または随時)行う体制が構築されている。

【運営組織】



経営総務

- 庶務、経理**
 ○人事・労務管理、法務、契約、文書管理、資料管理、備品管理、外部委託業務対応、経理会計(予算・決算・出納など)
 ○外部委託業務の経理会計(予算・決算・出納など)
- 施設提供(貸館)**
 ○貸館スケジュールの管理
 ○貸館マネージメント対応
- 営業、ファンドレイズ**
 ○渉外行政や関係機関との連絡調整
 ○企業、各種団体の助成、協賛金等の獲得、共催、後援、協賛先の開拓、促進
 ○友の会会員の獲得、管理
- 広報、宣伝**
 ○施設及び主催事業の各種広報、機関誌やパンフレット等の出版
 ○ホームページ・ICT(情報通信技術)の活用に関する業務
 ○チラシ、ポスター、DM等の作成、配布
 ○パソコンの管理

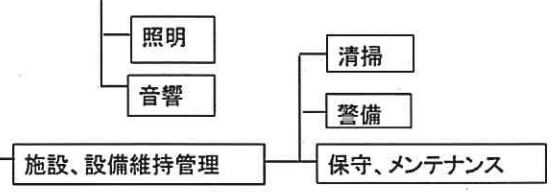
自主事業

- 自主事業**
 ○国内の優れた芸術文化公演の鑑賞事業などの企画、制作から実施に至る業務
 ○市民による交流や、他施設、まちなかのにぎわいにつながる事業の企画、制作から実施に至る業務
- 普及事業**
 ○ワークショップ、アウトリーチなどの参加・体験事業の企画、制作から実施に至る業務
 ○次世代を担う子どもたちに関わる育成事業の企画、制作から実施に至る業務
 ○地域の芸術文化の発信や、地域の出身のアーティスト、文化人などの公演の企画、制作から実施に至る業務

技術

- 舞台技術、日常管理**
 ○事業実施時のプランニングや舞台機構操作、舞台運営、舞台機構・照明・音響の各設備や大道具備品の日常管理やメンテナンス
 ○舞台技術者等による利用者支援や講座などの実施
 ○照明、音響の外部委託対応、調整

【外部委託】



文化会館開館記念事業(案)

区分	開催月	What	Why	Genre	Type	Memo
		事業内容等の例	企画意図・実施理由・実施効果等	ジャンル	拠点機能の類型	備考
ブレイベント	完成	・完成式典、内覧会	・文化会館の完成を市民とともに祝う ・一般利用開始前に市民向けの内覧会を実施する	式典ほか	⑤発信	
	11月	・市民によるホールの先行利用	・完成した文化会館のホールを、市民(特に児童生徒)に最初に使用していただく ・比較的使用備品の少ない演奏会の開催により、技術スタッフの習熟になる	フリー(音楽中心)	①活動 ②育成	
開館記念事業第1弾 (平成29年度実施)	12月	・ビッグアーティストのコンサート	・ビッグアーティストを招聘してのコンサートにより、開館を広く周知する ・ポップス系コンサート開催を期待する市民の要望に応える ・市民に文化会館の開館を喜んでいただく	音楽(ポップス系)	④鑑賞 ⑤発信	
		・ベートーヴェン「第九」演奏会	・市民合唱団による演奏会により「合唱のまち鶴岡」を内外にアピールする ・プロの歌手やオーケストラとの共演により、地元参加者のレベルアップを図る ・ホールの生音の響きを鑑賞する	音楽(クラシック音楽系)	②育成 ③創造 ④鑑賞 ⑤発信	
		・NHK『のど自慢』	・幅広い年代やジャンルでの参加者や集客が見込まれる ・日頃、文化会館を利用する機会の少ない市民にも足を運んでいただく ・NHKの全国放送により、開館を広く周知する	音楽(ポップス系・演歌等)	⑤発信 ⑥交流	
	3月	・人気作家や新進気鋭の若手作家などを交えた『寄席』	・日本の話芸に身近に触れる機会を提供する ・文化会館に親近感をもっていただく	落語・演芸(落語)	②育成 ③創造 ④鑑賞 ⑤発信	
		・プロの劇団による『ミュージカル公演』	・子どもと一緒にミュージカルの楽しさに触れる機会を提供する ・ワークショップ等の実施により、ミュージカルへの理解を深める	演劇(ミュージカル)	②育成 ③創造 ④鑑賞	
		・日本舞踊、謡曲などによる『邦楽のつどい』	・市内の邦楽・邦舞団体に発表の機会を提供する ・地元で継承されている邦楽・邦舞を鑑賞する機会を提供する	音楽(純邦楽系) ダンス・舞踊(日本の舞踊) 演劇(日本の伝統演劇系)	①活動 ②育成 ③創造 ④鑑賞	
開館記念事業第2弾 (平成30年度事業)	4月	・市民が気軽にアートに触れるフェスティバル	・芸術文化団体や施設等と連携し、にぎわいや交流を促進する ・市民が身近にアートに触れ、アートを始めるきっかけとなる	フリー	①活動 ②育成 ③創造 ④鑑賞 ⑤発信 ⑥交流	
		・プロの劇団による『ミュージカル公演』	・プロの劇団による華やかな公演で開館を祝う ・希望の多い公演を実施し、市民の鑑賞希望に応える	演劇(商業ベースの演劇)	④鑑賞 ⑤発信	
	5月	・鶴岡市出身の若手音楽家によるコンサート	・鶴岡出身の活躍が期待される若手音楽家に発表の機会を提供する ・観客が芸術文化活動を始めるきっかけになや、身近な目標となる	音楽(クラシック音楽系)	①活動 ②育成 ④鑑賞	
		・フルオーケストラによる『クラシックコンサート』	・ホールの生音の響きを堪能していただく ・一流オーケストラによる良質なクラシック音楽の鑑賞機会を提供する	音楽(クラシック音楽系)	④鑑賞 ⑤発信	
		・歌とダンスパフォーマンスによるコンサート	・若年層にファンの多いダンス系グループによるコンサートにより、若年層を誘惑する	音楽(ポップス系)	④鑑賞 ⑤発信	
	12月	・市民自らが企画・制作する公演(実施公演募集)	・市民が企画、制作する公演を募集する ・公演実施を館のスタッフがサポートする	フリー	①活動 ②育成 ③創造	
		・歌舞伎公演	・日本の伝統芸能である歌舞伎に触れる機会を提供する ・全国公立文化協議会主催「全国公文協統一企画」松竹大歌舞伎」	演劇(日本の伝統演劇系)	①活動 ②育成 ⑤発信	
		・お笑い芸人等による喜劇	・楽しく親しみやすい公演を開催し、文化会館に気軽に足を運んでいただく	演劇(商業ベースの演劇)	④鑑賞 ⑤発信	
		・親子が一緒に楽しめるコンサート	・親子が周りに気兼ねなく、一緒に楽しめる機会を提供する	音楽(クラシック音楽系)	②育成 ④鑑賞	
		・プロによる『オペラ』公演 (バックヤードツアー、ワークショップ、アウトリーチ)	・開館記念事業の最終公演として、華やかにオペラ公演を実施する ・ホール機能のひとつである「オーケストラピット」を使用する ・将来の市民参加型オペラの実施に向けて、ワークショップ等を実施する	音楽(クラシック音楽系)	②育成 ③創造 ④鑑賞 ⑤発信	

市民参加の概要

1. 鶴岡市文化会館(仮称)における市民の参加

開館前より市民参加の試みを行うことによる目的と効果

- 一人でも多くの市民に新しい文化会館への認知度、親和性を高めていく
- 市民が文化や芸術に関心を持つ機運を高めていく
- 市民が新しい文化会館の活動を理解し、支援する機運を醸成していく
- 文化や芸術への参加を通して、新たな市民の繋がりを築いていく

開館後に市民参加を行っていくことにより期待されること

- 市民と文化会館のパートナーシップを築いていく
- 文化芸術活動を支える市民リーダーを育てていく
- 市民が主体となる自立した文化芸術活動を促進させていく

市民参加を進めるにあたっての考え方

- 個々の市民が備える様々な能力や機会を活かす
- お互いを尊重し、無理を強いることなく相互に可能なことから始める
- いつでも、誰でもが参加できる窓口を開いておく
- 活動や参加について時間軸を踏まえて成長させていく
- 施設設置者、管理運営者、そして市民にとって良好な関係を築いていく

2. 鶴岡市文化会館(仮称)の市民参加計画

開館初年度に向けて実施する市民参加の内容

●開館初年度の鶴岡市文化会館記念事業に向けて、主にフロントスタッフ(チケットもぎり、客席案内)の募集を行い、開館初年度に向けて接遇研修などを行う事を検討して行きます。接遇研修では特に“日常生活とは異なる”挨拶や感じの良い表情、スマートな動作(無駄がなく、効率の良い動き)、正しい敬語と感じの良い言葉遣い、おしゃれと身だしなみの違いなどを理解していただき、開館記念事業では市民サポーターから公演のフロントスタッフとして活動して頂く予定です。また、他の市民のサポーター活動、友の会(仮称)についても柔軟に対応していきます。

開館初年度に向けての市民参加の実施スケジュール(案)

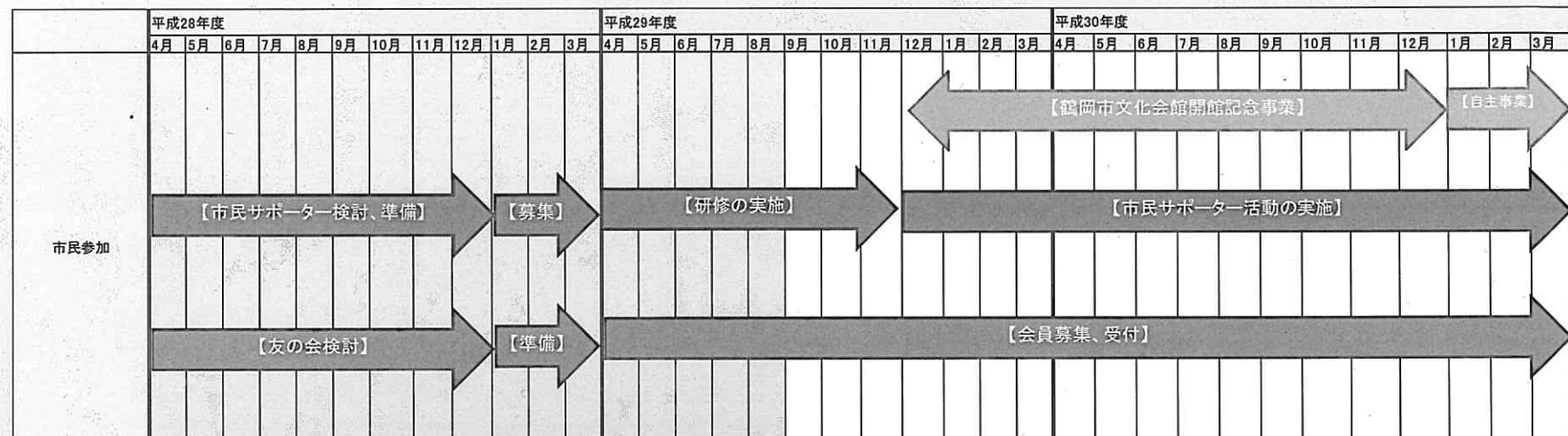
●おおよそ、以下のイメージで市民参加の検討をしていきます。

平成28年度

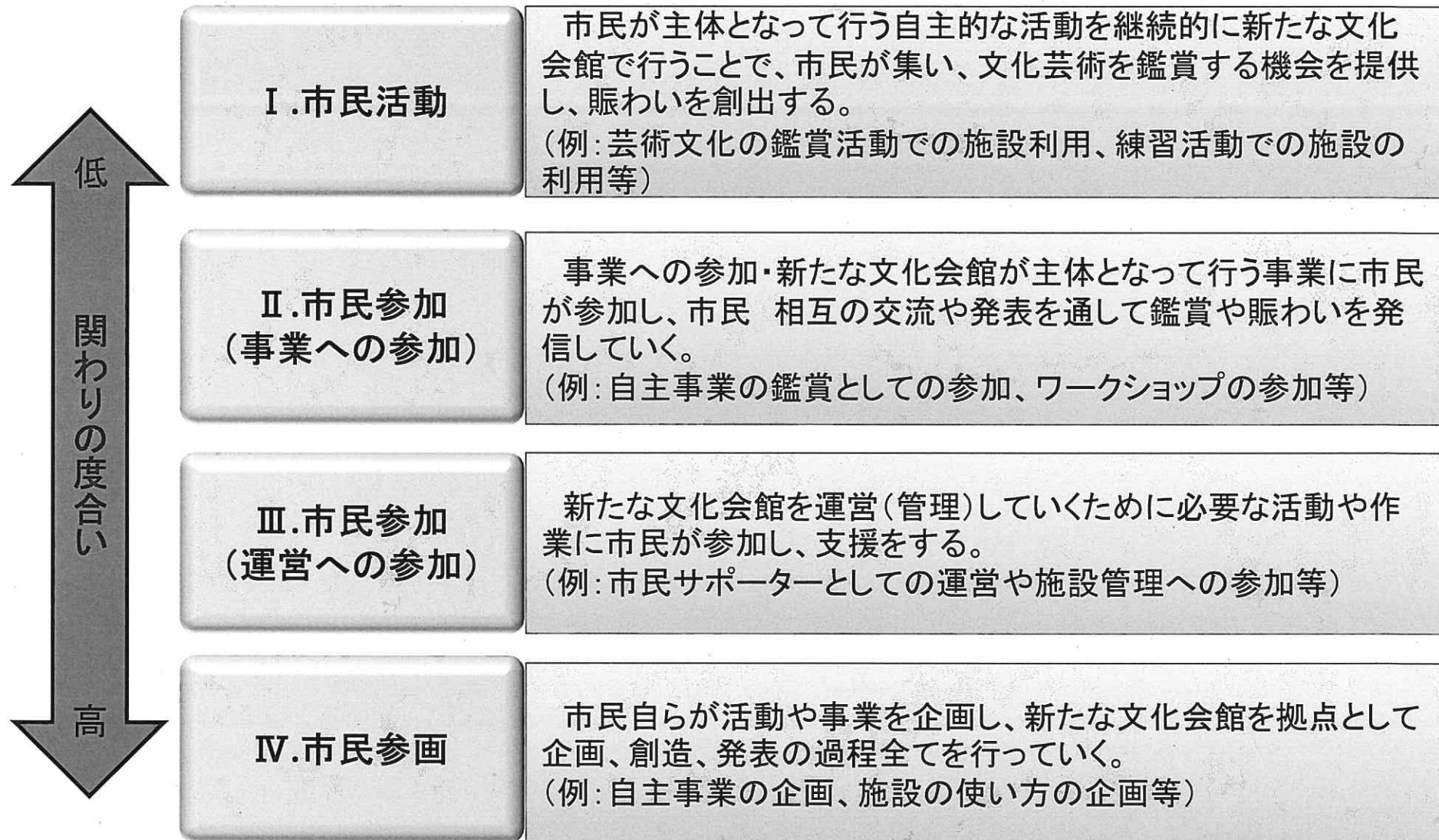
具体的なフロントスタッフの接遇研修の計画、市民サポーターの募集、友の会(仮称)の実施内容の検討 等

平成29年度

市民サポーターの接遇研修、市民サポーターの開館記念公演のフロントスタッフとして活動、友の会の会員募集 等



市民参加の可能性と分類



全国の市民サポーターの状況

市民サポーターとは

●市民が様々な能力や知識を活かし、やりたい事業や、文化会館の環境づくりなど自己実現できる場として「市民サポーター」があります。「市民サポーター」とは、市民による文化会館の活動や舞台芸術がもっと身近なものとなるよう、施設周辺の清掃や、除雪などの施設管理や、公演の際にチケットのもぎり、客席案内などの運営、サポーター同士の交流につながる情報誌の作成などといった文化会館の支援、普及活動をして頂く方たちです。

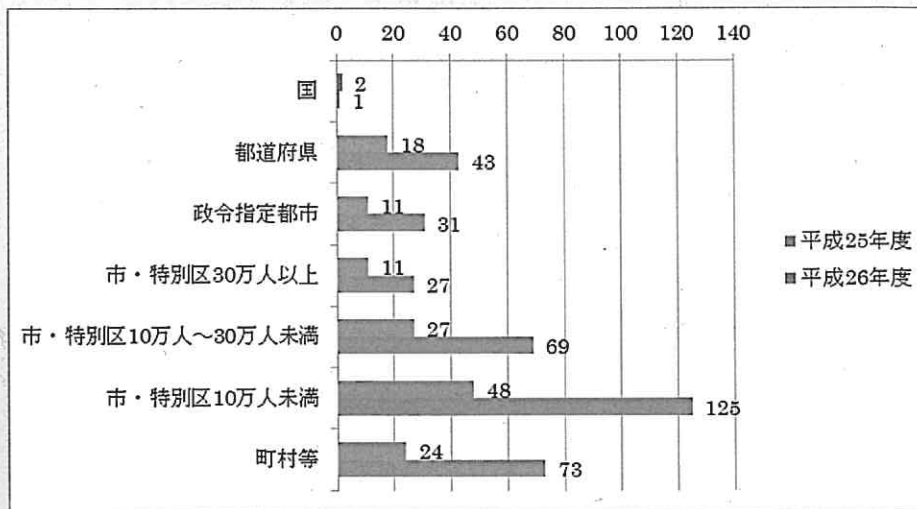
ボランティアを有する施設の割合

	n値(館)	有り(館)	比率
公立文化施設全体	1138	369	32.4%
国	6	1	16.7%
都道府県	100	43	43.0%
政令指定都市	95	31	32.6%
市・特別区30万人以上	108	27	25.0%
市・特別区10万人～30万人未満	244	69	28.3%
市・特別区10万人未満	373	125	33.5%
町村等	212	73	34.4%

・ボランティア(市民サポーター)のいるホールは全体の32.4%(369館)となっている。10万人～30万人未満の自治体においてボランティアを有する公立文化施設は28.3%(69館)となっている。

■参考資料:「劇場、音楽堂等の活動状況における調査研究報告書」
(公社全国公立文化施設協会)

ボランティアを有する施設の推移



・10万人～30万人未満の自治体においてボランティア(市民サポーター)を有する公立文化施設は平成25年度が27館だったが平成26年度は69館となっている。

全国の友の会の状況

友の会とは

●芸術文化の鑑賞に興味がある市民などに、様々な鑑賞のサービスを行うなど、鑑賞者の育成を目的とする組織として「友の会」があります。「友の会」とは有償で会員になって頂く代わりに、いち早く公演情報をお知らせや、チケット割引などのサービスを提供する会員組織です。

友の会を有する施設の割合

	n値(館)	比率
公立文化施設全体	1138	31.2%
国	6	83.3%
都道府県	100	43.0%
政令指定都市	95	31.6%
市・特別区30万人以上	108	38.9%
市・特別区10万人～30万人未満	244	37.7%
市・特別区10万人未満	373	27.9%
町村等	212	18.4%

・友の会のある公立文化施設は全体の31.2%となっている。10万人～30万人未満の自治体において友の会がある公立文化施設は37.7%となっている。

・10万人～30万人未満の自治体において友の会の会員特典としてチケットの先行申込み、チケット割引、会報の発行はほとんどの公立文化施設が行っている。

■参考資料:「劇場、音楽堂等の活動状況における調査研究報告書」(公社全国公立文化施設協会)

平均会員数と平均年会費

	会員数(人)	年会費(円)
公立文化施設全体	1,689	1,726
国	12,775	1,666
都道府県	6	2,414
政令指定都市	2,359	1,890
市・特別区30万人以上	1,149	1,752
市・特別区10万人～30万人未満	739	1,573
市・特別区10万人未満	661	1,694
町村等	581	1,467

・10万人～30万人未満の自治体において友の会の平均会員数は739人、平均年会費は1573円となっている。

会員特典

	チケットの先行申込み(%)	チケットの割引(%)	会報(%)	その他(%)
公立文化施設全体	89.6	89.0	76.9	39.6
国	100.0	100.0	100.0	100.0
都道府県	85.7	81.0	59.5	38.1
政令指定都市	82.8	93.1	89.7	31.0
市・特別区30万人以上	92.3	94.9	87.2	53.8
市・特別区10万人～30万人未満	93.4	94.5	82.4	40.7
市・特別区10万人未満	88.2	85.3	75.5	33.3
町村等	89.5	84.2	63.2	39.5

管理運営実施計画に記載する項目

I.事業計画
1 事業の方針
2 事業の展望
3 開館初年度に向けての事業計画
4 事業の評価
II.施設提供
1 施設提供の考え方
2 休館日、開館時間
3 利用手続き
4 利用料金
5 その他
III.運営主体・組織
1 運営主体・組織の検討経緯
2 運営主体の基本条件
3 運営組織の設立
4 組織体制
5 運営主体が担う業務
IV.危機管理・リスクマネジメント
1 安全対策と危機管理体制の構築
2 施設・設備の維持管理
3 リスクマネジメント
V.市民の参加や協力
1 市民参加の考え方
2 市民サポーター(仮)
3 友の会(仮)
■(参考資料)全国の友の会設置状況
VI.収支計画
1 収支の考え方
2 収入の構成
3 支出の構成
VII.広報計画
1 広報活動の考え方
2 愛称、シンボルマーク
3 広報活動の計画

1. はじめに

本年3月で準備工事が完了し、4月より本工事に着手しました「『支える、育てる、高める』未来につなぐ芸術文化の拠点」となる新文化会館改築工事は、ご近隣の皆様のご協力のもと、順調に工事を進めております。皆様に工事の状況・内容をご理解いただけたら、今後、定期的に『工事かわら版』を発行し報告させていただきます。ご近隣の皆様には、なにかとご不便をおかけしますが、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2. この2か月の主な作業

①杭工事

- ・施工期間：2015年6月12日～2015年7月20日
- ・詳細内容：固い地盤を掘削する工程においては、騒音・振動により周辺の皆様に多大なご迷惑をお掛けしております。比較的大きな騒音・振動が発生する杭打ち作業は、**7月16日（木）で完了**する予定です。
- ・対策：不要な騒音・振動が発生しないよう、最新の注意をはらって作業を行います。

②掘削工事

- ・施工期間：2015年7月15日～2015年9月末
- ・詳細内容：**7月15日（水）から着手**する掘削工事では、場外に土を搬出するため、周辺にダンプトラックの走行が多くなりますが、交通安全に十分配慮いたします。
- ・対策：入退場を行うゲート前では、警備員を配置し、ご近隣の皆様優先で誘導を行います。また、ダンプトラックの走行による騒音・振動の影響を最小限に抑えるため、交通ルールを遵守することはもとより、極力、スピードを抑えた走行を心掛けます。また、道路清掃や環境維持に努めます。

③基礎躯体工事

- ・施工期間：2015年7月末～2015年12月末
- ・詳細内容：クレーン車や生コン車・資材運搬車両が入り出しますので、現場周辺の工事車両の走行が多くなります。
- ・対策：掘削工事における対応と同様。

3. 場内全景

・6月中旬場内全景写真
 杭工事重機の組立が完了し、杭工事を着手した状況。ここから、約1か月間の杭工事が始まりました。



4. 場外活動

・鶴岡チャレンジデーの一環として、5/27（水）に全作業員・職員にて広範囲のゴミ拾いウォークを実施しました。現場周辺におきましては、今後も週1回程度のゴミ拾いを行い、周辺環境美化に努めてまいります。



5. 工事内容の紹介

今回は、現在行われている杭工事と掘削工事の概要について、ご紹介します。

●杭工事（既製コンクリート杭工法）

杭工事は、地中に孔をあけてコンクリート製の既製杭を埋め込む工法を採用しており、場所打ち杭工法と比べて施工後の杭頭解体工事が発生しない、騒音・振動・粉塵が少ない工法です。

3点式杭打機2台及びクローラクレーン2台で、平均20m、122本の杭を1か月かけて施工する予定です。



写真：3点式杭打機



写真：150ト クローラクレーン

●掘削工事

掘削工事は、バックホー（ショベルカー）で土を掘って、ダンプ等の運搬車で搬出する工事です。バックホーの大きさはさまざまありますが、本工事で使用するバックホーは、1回の掘削で約お風呂7杯分（1.4m³）の土をダンプに積み込むことができます。なお、バックホーは環境基準で定められた低騒音・低振動のものを使用します。また、作業所内に入場する車両は、アイドリングストップを厳守し、Co2の抑制に努めます。



写真：バックホーとダンプトラック

6. ホームページの紹介

鶴岡市ホームページに、鶴岡市文化会館改築工事の工事風景が紹介されておりますので、ご覧ください。



今後もご近隣の皆様ご迷惑をかけないように、最大限の注意をはらい、安全に作業を行ってまいります。工事に関しまして、何かお気づきの点がございましたら、下記までご連絡頂けますようお願い申し上げます。

竹中工務店・菅原建設・鈴木工務店特定建設工事共同企業体 作業所事務所



暮らし・環境 健康・福祉 子育て・教育 安全・安心 **文化・スポーツ** 産業・経済 年金・保険

現在のページ > [トップページ](#) > [文化・スポーツ](#) > [文化・芸術](#) > [文化会館改築](#) > [解体工事・改築工事](#) > 鶴岡市文化会館改築工事－平成27年7月建設現場風景

鶴岡市文化会館改築工事－平成27年7月建設現場風景

更新日:2015年8月12日

平成27年7月の建設現場風景

鶴岡市文化会館改築工事については、7月で杭工事(長さ約20m、122本)が完了し、現在は掘削工事や基礎の躯体工事を行っております。

掘削工事では、場外に土を搬出するためダンプトラックが、また基礎躯体工事においても、クレーン車や生コン車・資材運搬車両が出入りしますので、現場周辺の工事車両の走行が多くなります。

入退場を行うゲート前では、警備員を配置し、ご近隣の皆様優先での誘導を行うとともに、工事車両の走行による騒音・振動の影響を最小限に抑えるため、交通ルールを遵守することはもとより、極力、スピードを抑えた走行を心掛けます。また、道路清掃や環境維持に努めますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



搬入口付近(敷地西側)の掘削工事の様子



練習室付近(敷地北側)の基礎の鉄筋工事の様子

なお、平成27年7月に工事現場を定点撮影した動画については、下記からダウンロードすることができます。(機材の不具合により7月1日から16日までの動画となっております。ご了承ください)

また、ライブカメラ(鶴岡市ネットワークカメラ(致道館))からは、現在の工事状況が確認できますので、ご覧ください。

定点撮影動画

[📺 工事現場風景\(平成27年7月\) \(映像:5.740KB\)](#)

ライブカメラ

[📹 鶴岡市ネットワークカメラ\(致道館\)](#)

内部リンク

[📄 鶴岡市文化会館改築工事－平成27年5月・6月建設現場風景](#)

[📄 鶴岡市文化会館改築工事－平成27年4月建設現場風景](#)

工事のお問合せ先について

- 鶴岡市建設部 建築課 建築係 (電話:0235-25-2111(内線486))
- 鶴岡市教育委員会 社会教育課 芸術文化係 (電話:0235-57-4867(直通))